＜白梅学びのエリア教育目標＞　喜びを力にして成長できる子ども
～「学ぶ喜び、成長する喜び、人とつながる喜び」を感じあえる学びのエリアをめざして～

＜本校の教育目標＞　かしこく・やさしく・たくましく

令和８年度　金沢小だより

１０月号
令和８年９月３０日
板橋区立金沢小学校
校長　神保　幸次郎

「応援」という特別な力

校長　神保　幸次郎

心地のよい秋風が吹き抜ける季節になりました。

いよいよ子どもたちが体育で取り組んできた成果を発表する運動発表会が近づきました。校庭や体育館には連日、子どもたちの元気な姿と励まし合う声がありました。

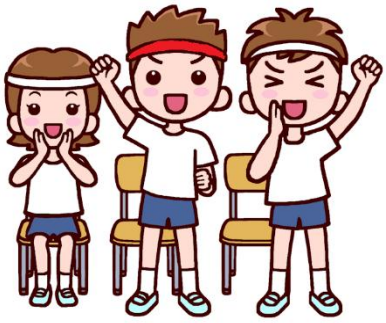
現代のスポーツや対戦の場面で欠かせないことの一つに「応援」があります。自分自身が実施者ではないが、支持する人たちの努力する姿を、その結実を願って声援等で励まし、時にその姿に勇気付けられ、喜びや悔しさを共に味わったりすることが応援の醍醐味ともいえるでしょう。

この「応援」という「自分以外の誰かの挑戦を、声や拍手によって励ましたり称えたりする」行動をとるのは、動物の中で人間だけだと言われています。実に文化的あると同時に人間味あふれる行動と言えるでしょう。

「応援」を記すにあたって、数年前に行われた東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会を機に行われたオリ・パラ教育と大きな関わりがあります。この教育ではスポーツとの新たな関わり(学び)方が示されました。それが「する・みる・支える・知る」という４つの視点です。

本校の運動発表会も、この４つの視点の学びが凝縮されています。運動の取組から自らの目標を設定し、その達成へ向けて練習に励み、成果を発揮する「する」学び。友達の良い動きなどを見付けるなどする「みる」学び。他者がよりよく発表できるよう応援をしたり、会の運営を手伝ったりする「支える」学び。そして、取組に込められた背景や友達の頑張りなどを「知る」学び。この４つの視点が揃ったとき、運動発表会は単なる体育の成果発表にとどまらず、子どもたち一人ひとりの豊かな人間性を育むかけがえのない体験へと深まります。

子どもたちはこれまで、担任団が設定した運動に、直向きに取り組んできました。そのプロセスでは、当然ながら順風満帆で楽しいことばかりではありません。運動を何度もやり直すなどしながら、仲間と声を掛け合ってねばり強く取り組んできました。うまくいかないところを自宅に帰ってからも練習したお子さんもいたことでしょう。

当日の温かい声援や拍手は、緊張や不安を胸に抱きながら一歩を踏み出す子どもたちの背中を力強く押してくれる何よりのエネルギーとなります。全力を出し切る姿はもちろんのこと、友達を一生懸命に応援する姿や、係の仕事に励む姿にも、ぜひご注目ください。

保護者・地域の皆様におかれましても、惜しみない温かい声援と拍手で、子どもたちの成長を後押ししていただきたいと思います。